

# 平成 26 年（2014 年）の鶴見岳・伽藍岳の火山活動

福岡管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## ○発表中の火山現象に関する警報等

平成 19 年 12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）
----------------------------	----------

## ○2014 年の活動状況

### ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 5～10）

鶴見岳監視カメラ（大分県）による遠望観測では、噴気は認められませんでした。

11 月 10～11 日に現地調査を実施しました。赤外線映像装置<sup>1)</sup>による観測では、伽藍岳周辺および鶴見岳地獄谷赤池噴気孔では、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

### ・地震や微動の発生状況（図 2、図 3、表 1）

火山性地震の年回数は 31 回（2013 年：23 回）と少ない状態でした。火山性地震の震源は、鶴見岳の東 1～3 km で海拔下 2～4 km に分布しました。

火山性微動は、観測されませんでした。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 遠望カメラによる鶴見岳・伽藍岳の状況  
(12 月 31 日、鶴見岳監視カメラ（大分県）による)

この資料は福岡管区気象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』、『基盤地図情報 10mメッシュ (数値標高モデル)』、『基盤地図情報』を使用しています (承認番号：平 26 情使、第 578 号)。

・地殻変動の状況（図 4、図 11）

GNSS<sup>2)</sup> 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

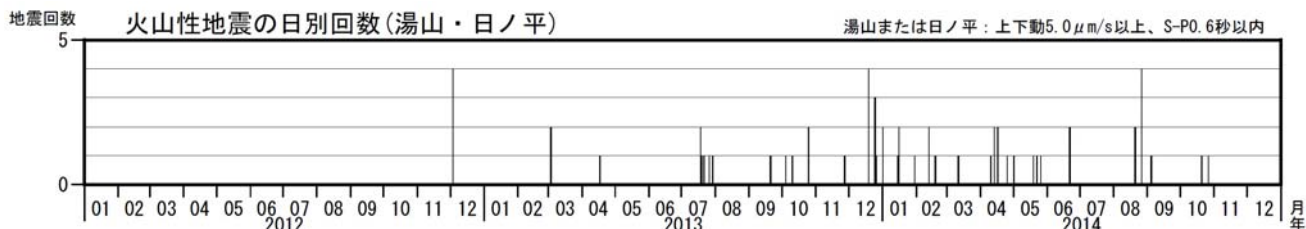
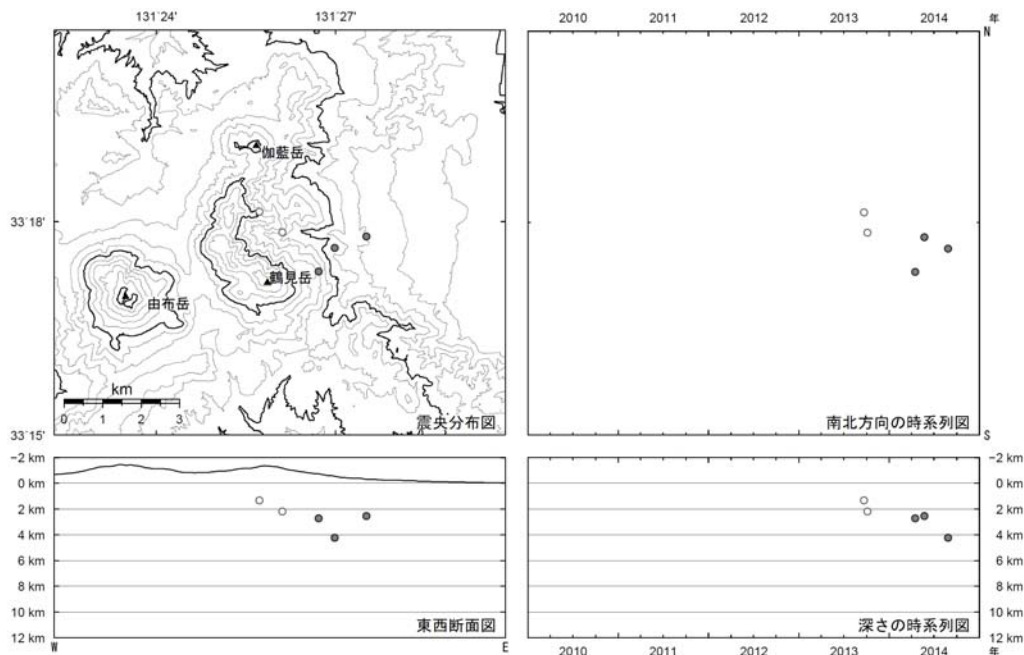


図 2 鶴見岳・伽藍岳 火山性地震の日別回数（2012 年 1 月～2014 年 12 月）

<2014 年の状況>

火山性地震の年回数は 31 回（2013 年：23 回）と少ない状態でした。



● : 2014 年の震源  
○ : 2010 年 1 月～2013 年 12 月の震源  
図 3 鶴見岳・伽藍岳 震源分布図（2010 年 1 月～2014 年 12 月）

<2014 年の状況>

火山性地震の震源は、鶴見岳の東 1～3 km で海拔下 2～4 km に分布しました。

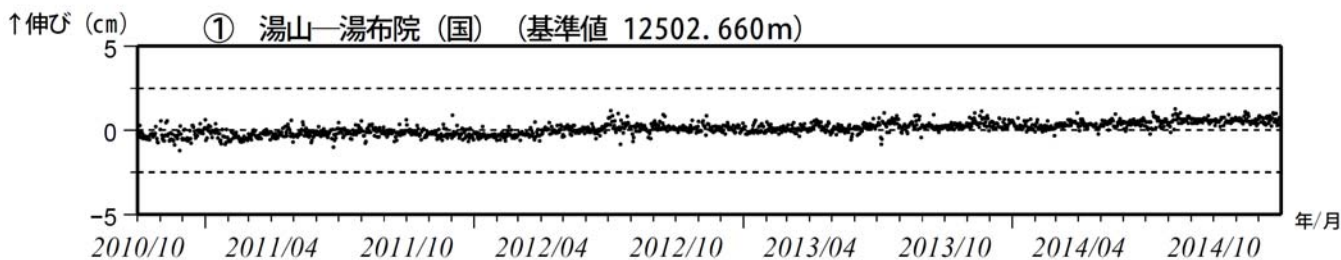


図 4 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2014 年 12 月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 11 の①に対応しています。

鶴見岳・伽藍岳

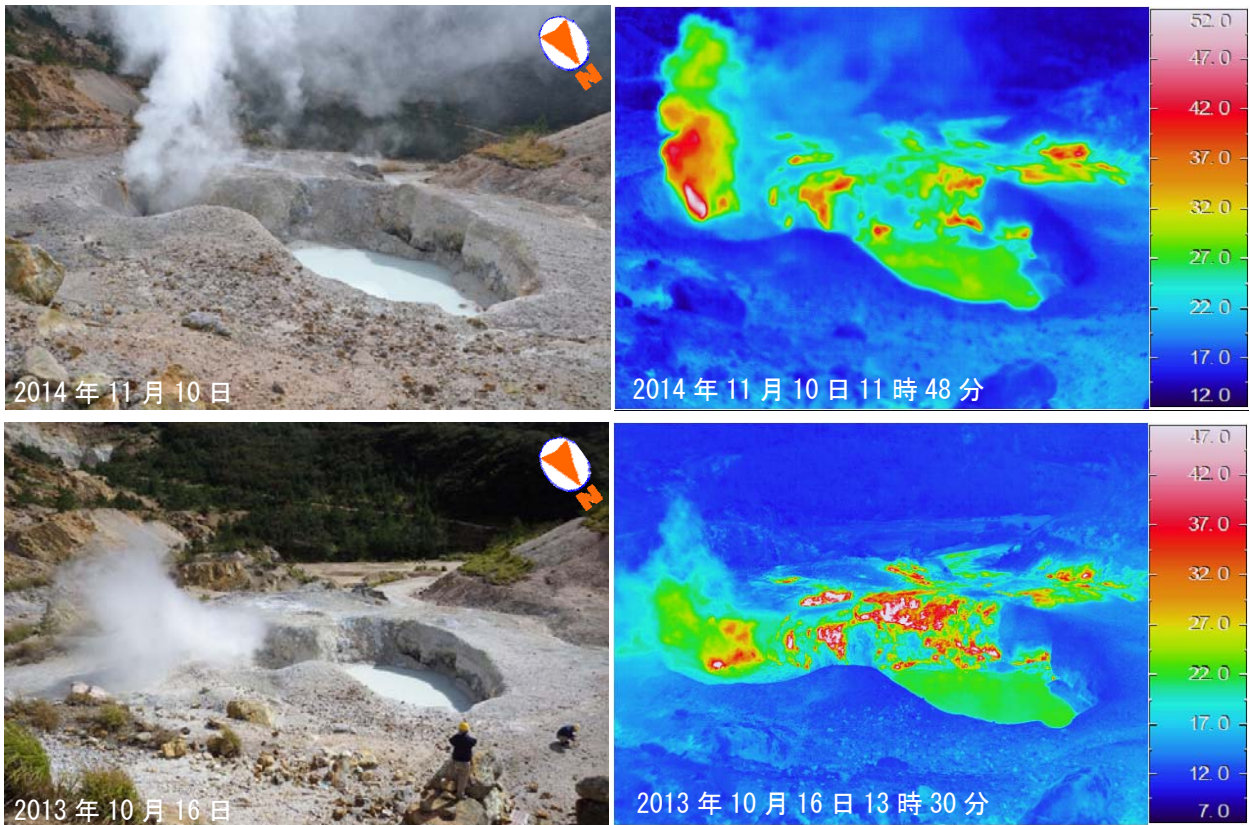


図 5 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳泥火山の状況（上段：2014 年 11 月 10 日、下段：2013 年 10 月 16 日）

地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

左が可視、右が地表面温度分布

地熱等の影響を受けていない領域の表面温度を算出し、基準温度として表示しています。

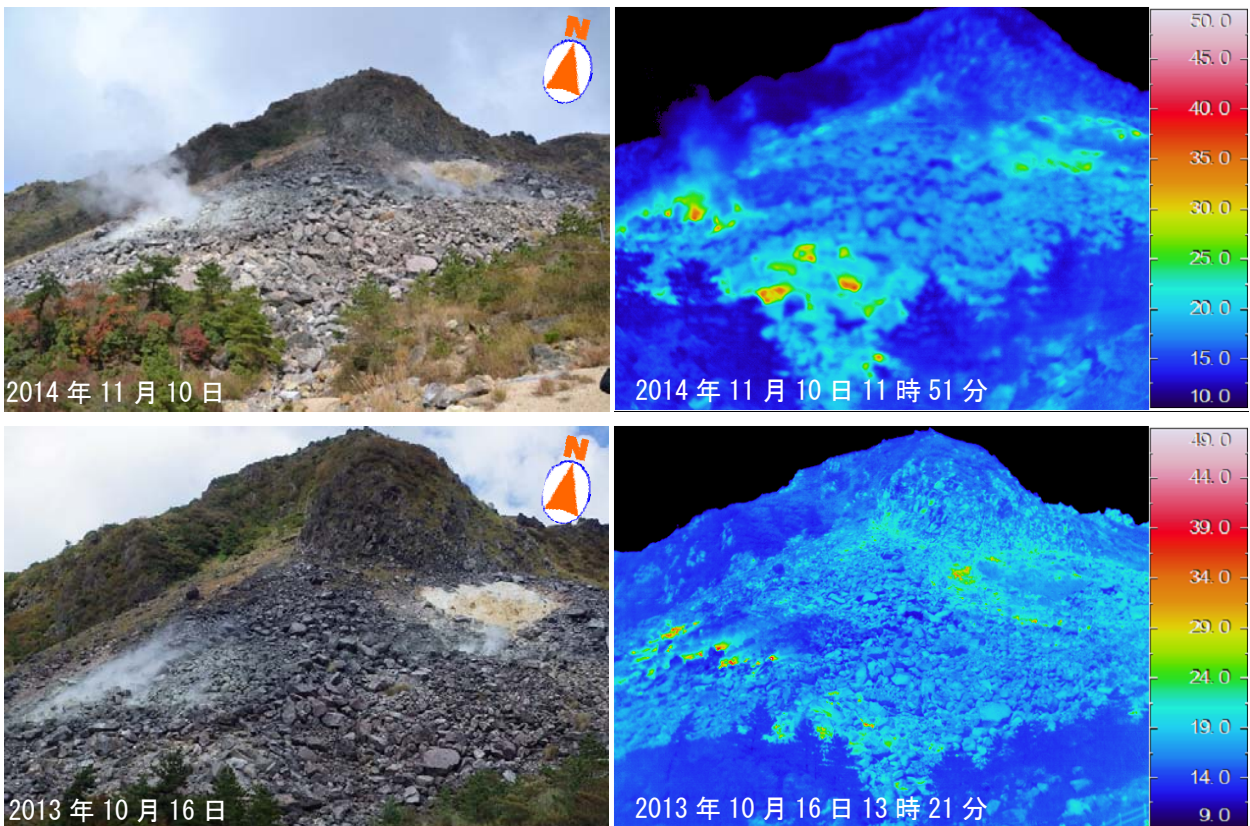


図 6 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳南側の状況（上段：2014 年 11 月 10 日、下段：2013 年 10 月 16 日）

地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

左が可視、右が地表面温度分布

地熱等の影響を受けていない領域の表面温度を算出し、基準温度として表示しています。

鶴見岳・伽藍岳

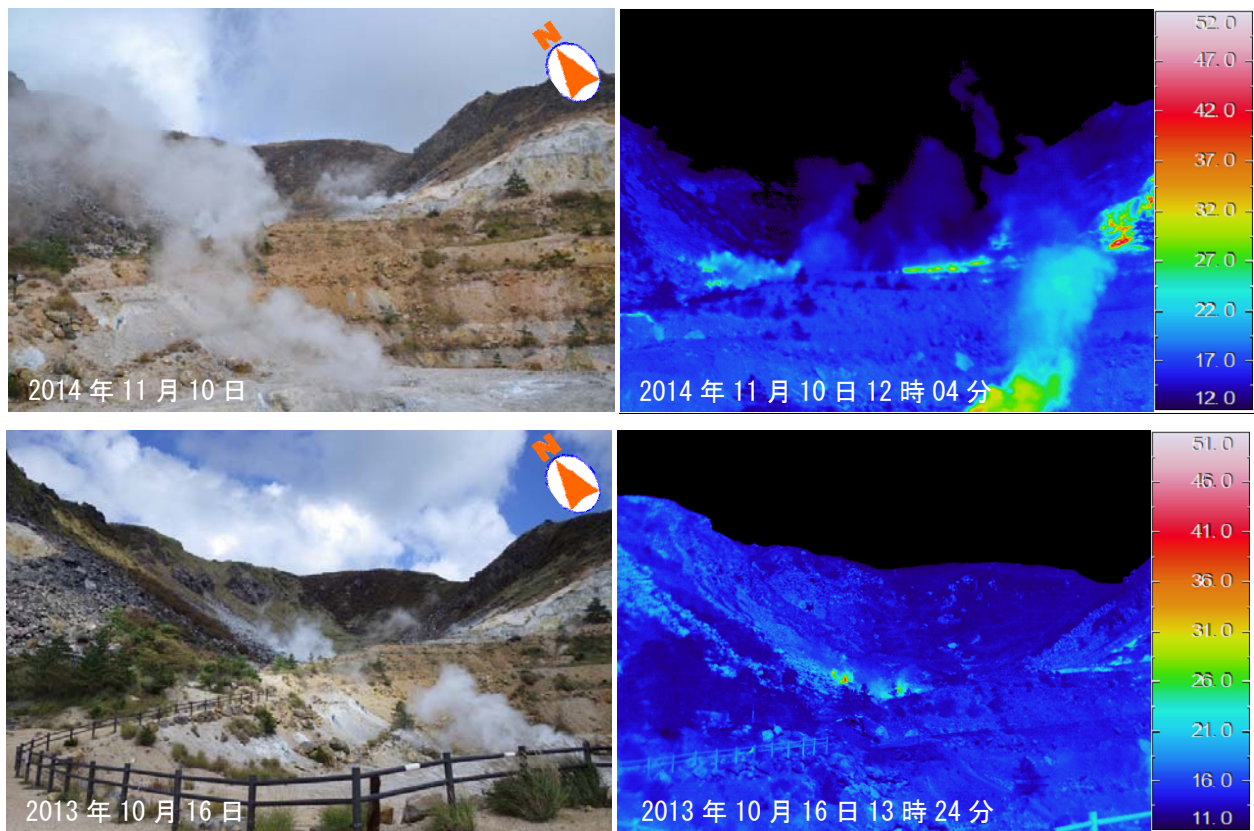


図 7 鶴見岳・伽藍岳 伽藍岳西側の状況（上段：2014 年 11 月 10 日、下段：2013 年 10 月 16 日）

地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

左が可視、右が地表面温度分布

地熱等の影響を受けていない領域の表面温度を算出し、基準温度として表示しています。



図 8 鶴見岳・伽藍岳 図 5～7 の撮影位置と方向

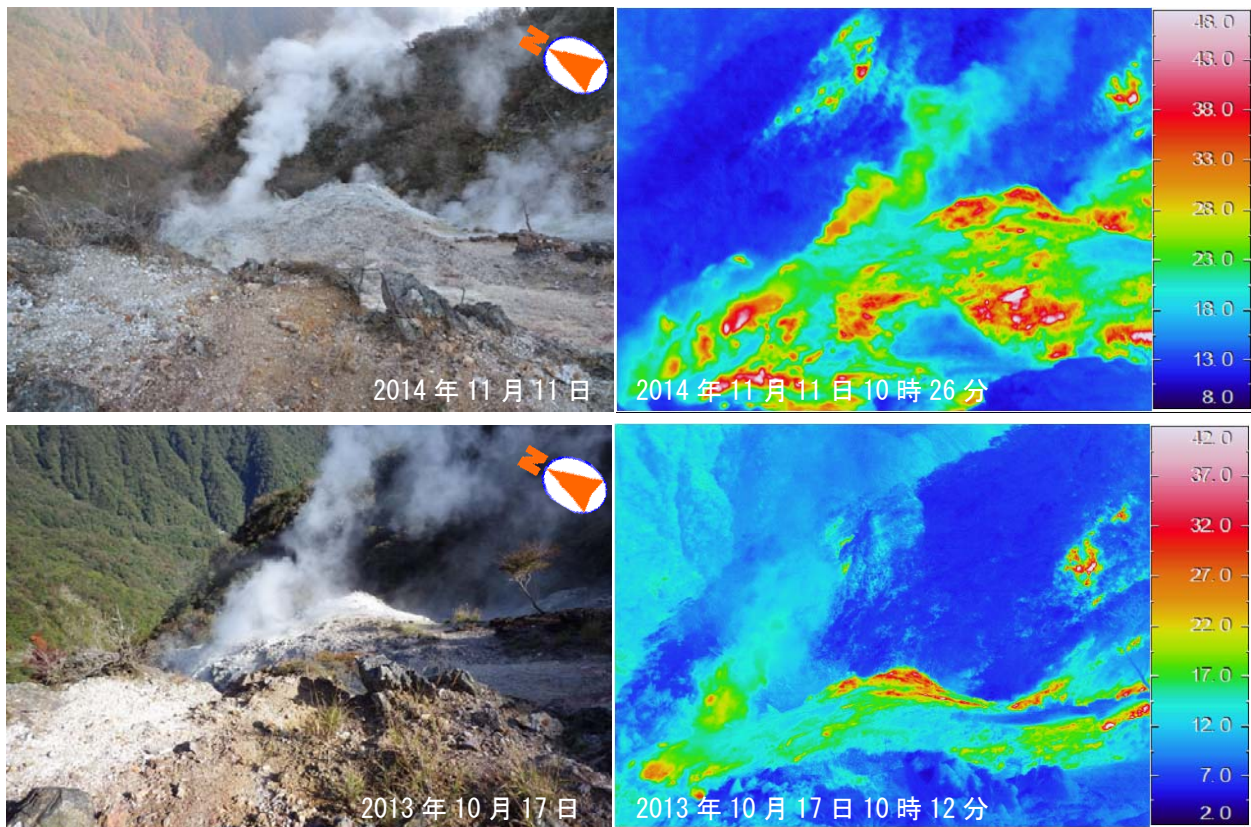


図 9 鶴見岳・伽藍岳 鶴見岳地獄谷赤池噴気孔の状況  
 (上段：2014 年 11 月 11 日、下段：2013 年 10 月 17 日)

熱異常域の分布が広がっているように見えますが、撮影箇所の違いによるものであり、地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。

左が可視、右が地表面温度分布  
 地熱等の影響を受けていない領域の表面温度を算出し、基準温度として表示しています。

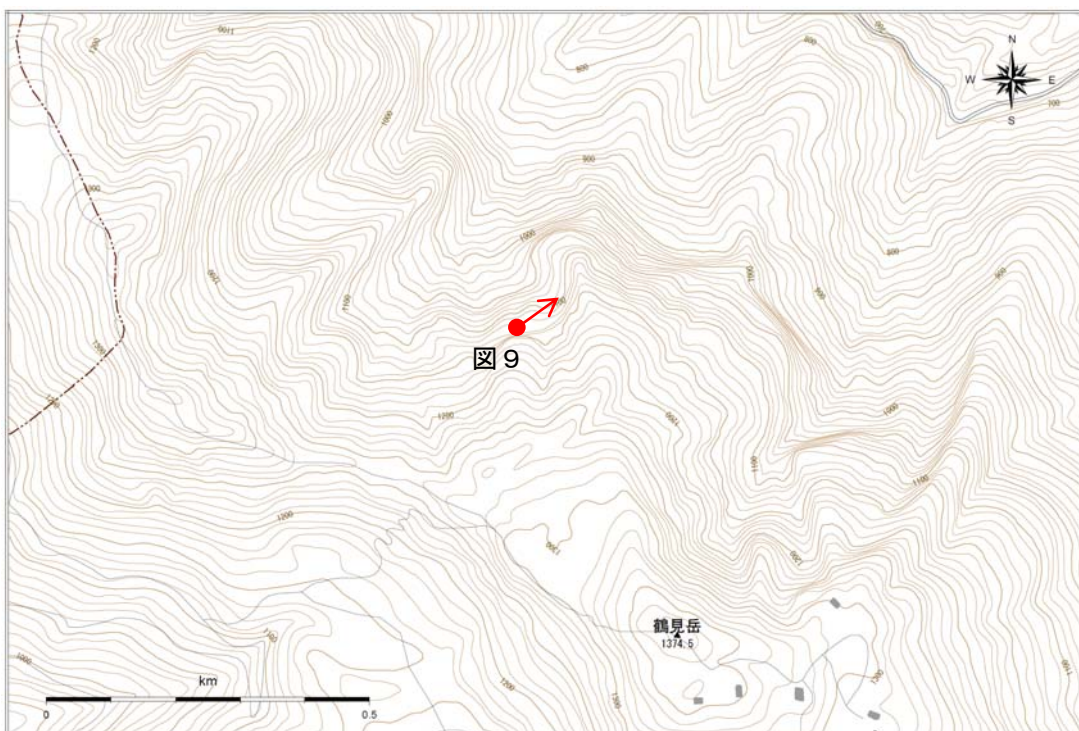


図 10 鶴見岳・伽藍岳 図 9 の撮影位置と方向

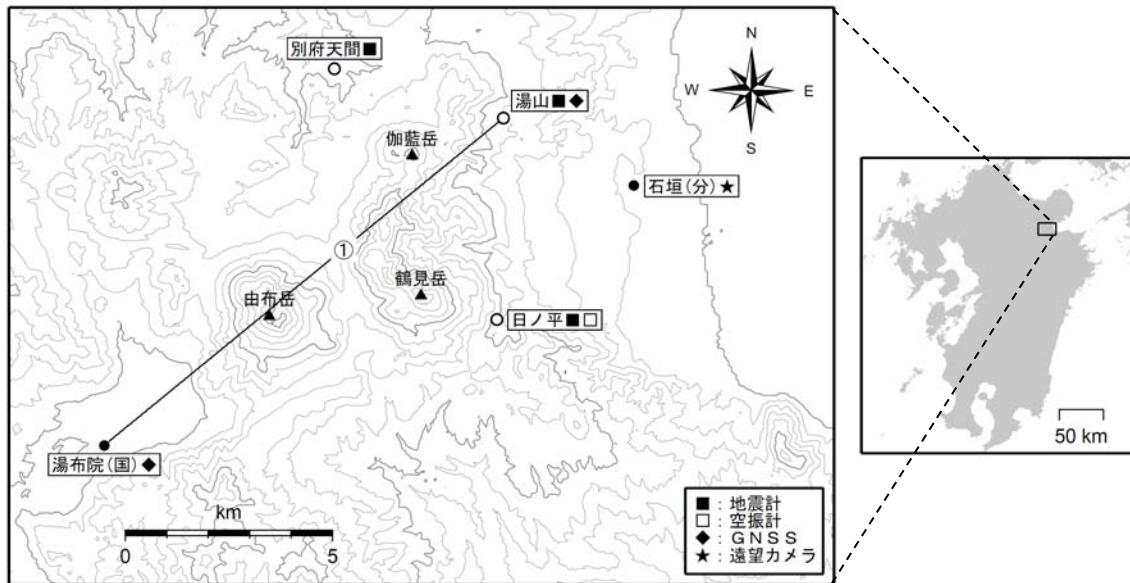


図 11 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(分) : 大分県  
 遠望観測点「石垣 (分)」は鶴見岳監視カメラ (大分県) を示しています。

表1 鶴見岳・伽藍岳 2014年地震日別回数

日	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1日	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
11日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12日	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13日	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16日	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
17日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18日	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19日	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
20日	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0
21日	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
22日	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
23日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
26日	0	0	0	0	1	0	0	4	0	1	0	0
27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
29日	0	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30日	1	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31日	0	/	0	/	0	/	0	0	/	0	/	0
月合計	6	3	1	6	4	2	0	6	1	2	0	0
年合計	31											

表2 鶴見岳・伽藍岳 気象庁(火山)観測点一覧(緯度・経度は世界測地系)

測器種類	観測点名	位置			設置高 (m)	観測開始 年月	備考
		緯度 (° ' )	経度 (° ' )	標高 (m)			
地震計	湯山	33° 19.53'	131° 27.07'	398	0	2010.11.1	短周期
	日ノ平	33° 16.89'	131° 26.97'	460	0	1994.7.7	短周期
空振計	日ノ平	33° 16.9'	131° 27.0'	460	2	2010.11.1	
GNSS	湯山	33° 19.5'	131° 27.1'	398	3	2010.10.1	二周波